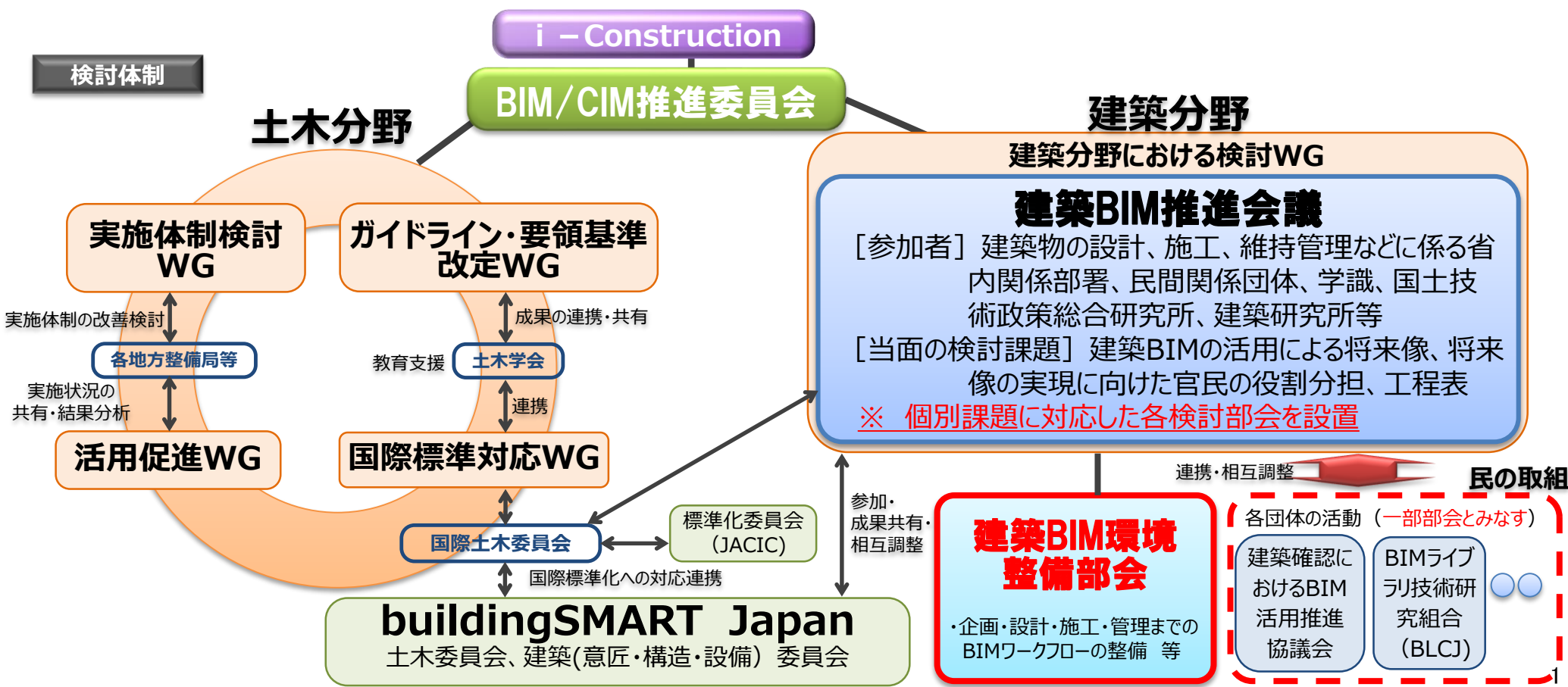


- ✓ 建築物の生産プロセス及び維持・管理において、BIMを通じ情報が一貫して利活用される仕組みの構築を図り、建築分野での生産性向上を図るため、官民が一体となってBIMの推進を図るため建築BIM推進会議を省内に構築（既存のBIM/CIM推進委員会の下に建築分野における検討WGとして構成）。
- ✓ 建築BIM推進会議においては、各分野で進んでいる検討状況の共有や建築BIMを活用した建築物の生産・維持管理プロセスやBIMのもたらす周辺環境の将来像を提示するとともに、将来像に向けた官民の役割分担・工程表（ロードマップ）を提示。
- ✓ 個別課題に対応するため、企画・設計・施工・管理までのワークフロー等を検討する「建築BIM環境整備部会」の設置や、各団体の活動を部会に位置づけることで、建築BIM活用に向けた市場環境の整備を推進。



- ・新しい経済政策パッケージ(H29.12.8閣議決定)では、Society5.0の社会実装を進めるため、建設分野の制度改革として、3次元データの活用などを位置づけ。
- ・未来投資戦略(H30.6.15閣議決定)では、デジタルガバメントの推進として建築関係手続のオンラインによる簡素化、次世代インフラ・メンテナンス・システムの構築等、インフラ管理の高度化として建設プロセスへのICTの全面的な活用等の推進を位置づけ。

新しい経済政策パッケージ(H29.12.8閣議決定)

第3章 生産性革命

近年、IoT、ビッグデータ、ロボット、人工知能などの新しいイノベーションの登場は、エネルギー環境制約など様々な社会課題の解決を可能とし、これまでにない革新的なビジネスやサービスを、次々と生み出している。単なる効率化・省力化にとどまることなく、「Society 5.0」時代のまったく新しい付加価値を創出することによって、まさに「革命的」に生産性を押し上げる大きな可能性を秘めている。世界で胎動しつつある、この「生産性革命」を、2020年を大きな目標に、我が国が、世界に先駆けて実現することを目指し、あらゆる政策を総動員する。

(2) 第4次産業革命の社会実装と生産性が伸び悩む分野の制度改革等

④建設分野

- ・ **i-Construction**について、2019年度までに橋梁・トンネル・ダム工事や維持管理、建築分野を含む全てのプロセスに**対象を拡大**するとともに、中小事業者や自治体への適用拡大を目指して**3次元データの活用やICT導入を強力に支援**する。また、AI活用・ロボット導入等により施工管理や点検・災害対応の高度化等を推進し、実用段階前の新技術の現場での実証を進める。

未来投資戦略2018(H30.6.15閣議決定)

第2 具体的施策

I. 「Society 5.0」の実現に向けて今後取り組む重点分野と、変革の牽引力となる「フラッグシップ・プロジェクト」等

[3]「行政」「インフラ」が変わる

- デジタル・ガバメントの実現(行政からの生産性革命)
 - (3)新たに講ずべき具体的施策
 - vi)世界で一番企業が活動しやすい国の実現
 - ④建築関係手続のオンラインによる簡素化
 - ・建築関係手続の一層の簡素化に向け、更なるオンライン化を推進し、オンライン化されていない手続について来年度中を目途に実施する。その際、事業者の利便性向上を図ることとし、特に法人共通認証基盤の活用やAPI公開を検討する。
 2. 次世代インフラ・メンテナンス・システムの構築等インフラ管理の高度化
 - (3)新たに講ずべき具体的施策
 - i)インフラの整備・維持管理の生産性向上
 - ・民間発注を含めた建築工事全体でのBIM普及に向けて、民間事業者等と連携し、建築物の設計・施工・管理の各段階におけるBIM活用の手順や共有するモデルの属性情報の整理等について課題抽出を行うとともに、BIMの有効性等の普及啓発方策を検討し実施する。

建築BIMの活用状況及び建築BIMの課題

BIMの活用状況

- ✓ 設計分野においてBIMの活用は限定的であるが、導入に興味を持つ建築士事務所(建築)は相当程度存在。しかし、設備系設計事務所におけるBIMの活用はかなり限定的、かつ導入実績や導入に興味を持つ事務所は少ない。
- ✓ 施工分野(大手ゼネコン等)においてBIMは相当程度活用。ただし、中小建設会社ではほとんど使われていない。

調査について

実施時期：平成29年12月～平成30年2月

調査協力団体：(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築設備設計事務所協会連合会、(一社)日本建設業連合会、(一社)日本空調衛生工事業協会、(一社)日本電設工業協会

設計分野でのBIMの活用状況 (N=323)

建築士事務所(建築)

導入実績あり：34% 活用予定・興味あり：53%

導入実績	導入実績あり：34%		導入実績なし：66%		
活用意向	積極的活用 19%	積極的活用なし 15%	5年以内導入 12%	導入興味あり 22%	導入予定なし 33%

施工分野(ゼネコン(建築))でのBIMの活用状況 (N=54)

ゼネコン(施工)

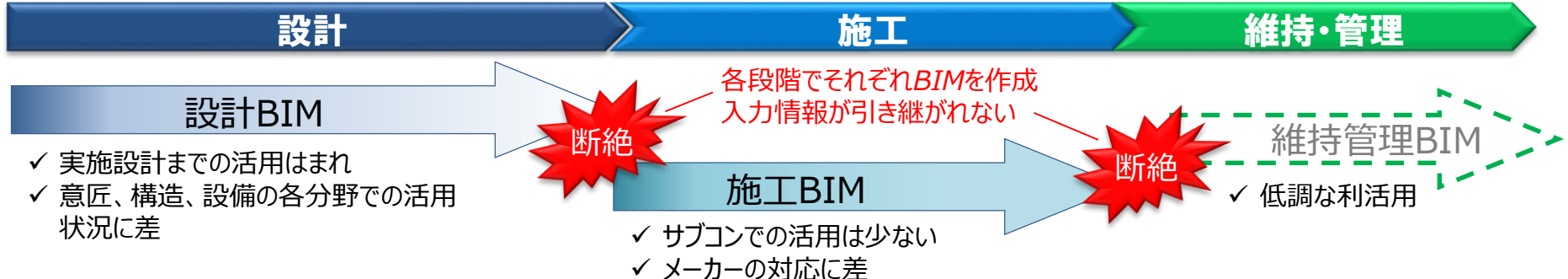
導入実績あり：71% 活用予定・興味あり：78%

導入実績	導入実績あり：71%		導入実績なし：29%		
活用意向	積極的活用 54%	積極的活用なし 17%	5年以内導入 13%	導入興味あり 11%	導入予定なし 5%

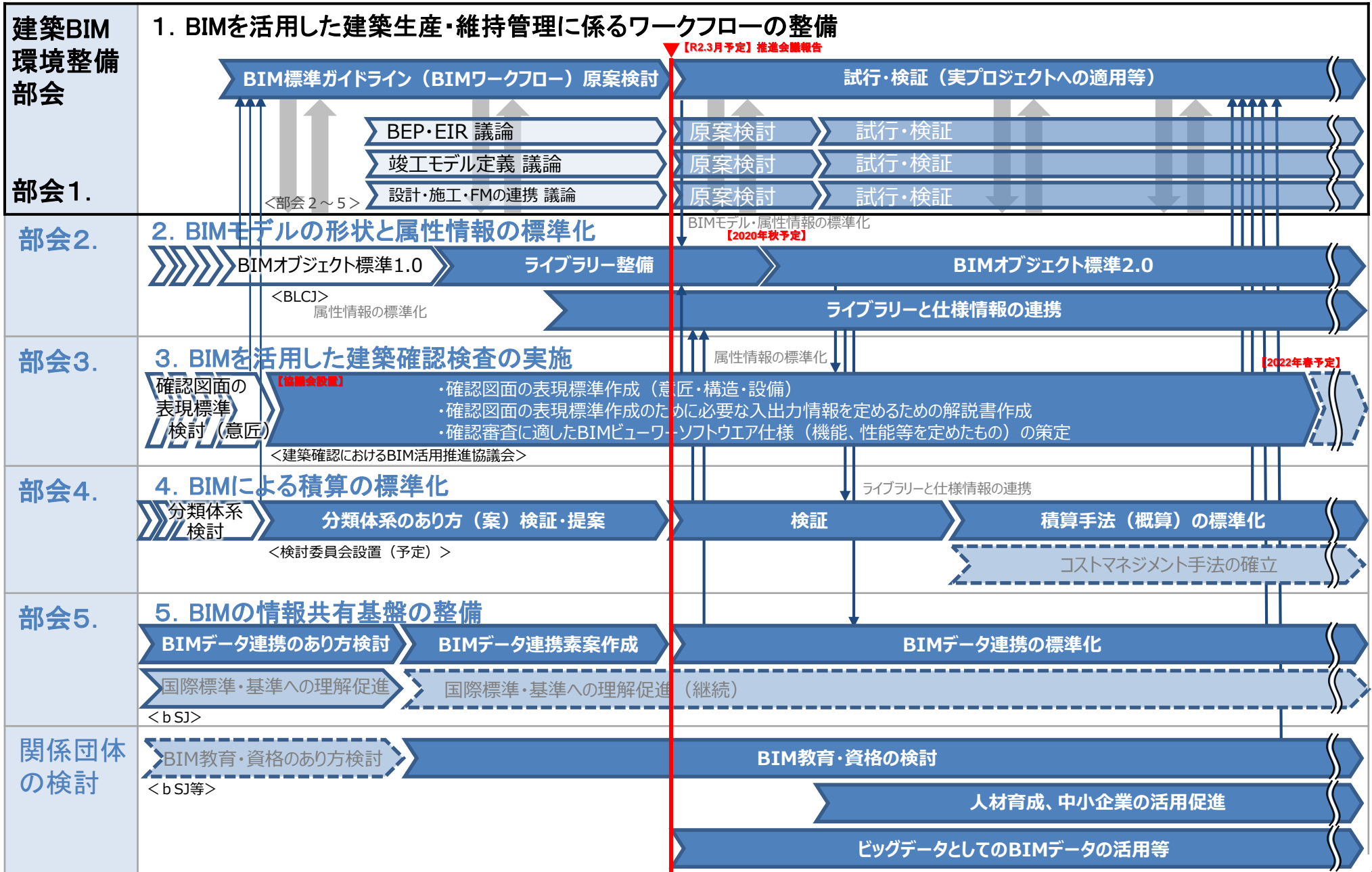
建築分野でのBIM活用に係る課題

- ✓ BIMを活用している場合でも、設計、施工の各分野がそれぞれ個別に活用するに止まっており、BIMの特徴である情報の一貫性が確保できていない。
- ✓ この結果、維持・管理段階までの一貫したBIM利用に繋がらない。
- ✓ 導入・運用には多額の設備投資が必要である上に、習熟した人材が不足(特に中小事業者にとっての課題)。

各生産プロセスにおけるBIMモデル・情報の利用状況



部会等の検討の流れ イメージ(案)



建築BIM推進会議・部会等の進め方・スケジュール 案 [2019年度] 国土交通省

- ✓ 6月～9月の間で3回、建築BIM推進会議を開催し、BIMを活用した建築生産プロセスの将来像及びこれに向けた工程表（案）を策定。2019年度下半期に 個別の課題に対応する部会を設置し、個別課題の検討を開始。
- ✓ 2019年9月以降、建築BIM推進会議は部会の検討結果の共有、関係団体の活動状況の共有を図る場として活用。
- ✓ 第4回建築BIM推進会議（3/11予定）では、将来像・工程表の更新（リーフレット）案を策定。
また、**BIM標準ガイドライン（BIMワークフロー）案**を含む部会の活動報告や関係団体の活動報告を実施。

